
思い

シノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思い

【Nコード】

N8895Z

【作者名】

シノ

【あらすじ】

ずっと会いたいと思っていた君への思い。言葉にすることは難しいけど、この思い君に届けたいから、今伝えるよ。

（前書き）

突然始まって、突然終わってます。
また今度書き直すかもしれんませんが、とりあえずUP。

僕らは生まれた場所は違うものの、小学校に入った頃からずっと一緒に居た。

太陽が昇っている時は僕らが離れてることなど無いと言えるほど、休み時間や、放課後も隣を見るとアイツが笑っている。そんな毎日を命の終わりまで続けると僕らは思っていた。

それが当然で当たり前であって、言葉にしていなかったがアイツもそうだと分かるほど

僕らの距離は近かった。そんな日々を過ごしていた、ある日どんなことが切っ掛けかも覚えていないが、将来を誓い合う結婚というものを約束した。僕らその日から今まで以上に明日が楽しみになり、大きくなるのが嬉しくて仕方なかった。

ずっとそうやって過ぎると思っていた。でも、僕らの世界の、社会のシステムはそうは出来ていなかった。中学になると僕らは引き離された。子供の多感な年ごろに男女は一緒に居るべきではない。家族から引き離されて学校の寮に全員が入る、男子は男子中学に、女子は女子中学に学力で決められて入学する。学校がある都市は指定され、学園都市として指定される。学生の間はその学園都市以外との接触を制限され、昔の友達と会うことも電話することも手紙を送ることも許されない。学園都市は数が決まっているため地元を離れなくてはいけないことの方が多く。高校までは絶対に行くこと、大学ならば、男女の接触が許されるらしい。

しかし、僕らが約束した結婚、それに関するお付き合いは国が許可を出すというものらしい。いや、許可を出すのではない、国が決めるのだ。生活や仕事などの時間帯、趣味や性格、給料や他にもいくつかの項目があるらしいが、それをもとに国が婚約者を決め、半月後に双方に結婚できないという具体的な理由がない限り、婚姻届

が自然と受理され、結婚式を挙げるといふ流れになっっているらしい。そう、僕ら二人が結婚出来ないかもしれない、アイツの隣に居るのは僕じゃなくなるかもしれないのだ。

僕はそれをアイツと離れなくてはいけなくて悲しくて仕方がなかった、中学の社会システムという授業の中で知った。知った瞬間、アイツの笑顔とあの映画の新婦の笑顔とが離れていくのを感じた。悲しいというような感情は持ってなかった。僕らが今まで歩いてきた道、先にあるはずの笑いあっている風景が黒い雨に汚されて見えなくなった。そして僕の意識も同じように真っ黒に侵され、途切れた。

目が覚めた僕は先生に何度も何度も質問した。アイツを隣に居させるためにはどうすればいいのか、先生が嫌そうな顔をして毎日のように通い聞き続けた。アイツとの約束が大事だったんじゃない。僕のエゴが、衝動が僕を突き動かした結果だった。明確な答えはもらえなかった。でも、国に関する仕事に付いたらどうだ？と言われた。

それからの生活は特に言うことなどないだろう、目を覚まして天井に張つてある「約束」と書いてある文字を見てから、同じ物を見るまで人間関係を保ちつつ勉強に励んだ。

なんでこんなに頑張っているのだろうと自分でも分からないまま。ただただ何かに急かされながら、大学までの6年間を過ごした。6年という長い時間を確かに会長やキャプテンなども務めた。それなのに思い出が少ないように思う。今こうして卒業の答辞を話しているのに、学校で過ごしてきた時間よりも、幼くて白黒で途切れ途切れたアイツと過ごした日々が僕の頭を占めていた。あと少し、あと少し、待っていてくれ。そんな気持ちで早く終わってしまいたいと本当は思っではいけないことを真剣に願った。大学にもきつとアイツは居ないだろう。聞けないから同じところに通おうとするのは失敗

したのだ。それでもこれからアイツに連絡も取れる、アイツに会う機会が出来る、それだけでも嬉しかった。まだ僕らの将来は分らないし、離れていた長い時間を埋めるのも大変だろう。でも、それ以上にアイツの笑顔が、変化が、過ごしてきた日々の話を聞くことが楽しみだった。

あと少しだよ、会いに行くから待ってて、僕はこれからの君のため頑張るから、近くで見てください。

（後書き）

最後まで読んでくださり、ありがとうございます。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8895z/>

思い

2011年12月27日23時39分発行